



桑折町長 高橋 宣博

「コロナ禍を
着実に歩む」
『住み続けたいまち
住みたいまち 桑折』
の実現を目指して

町民の皆様には、日頃から、町政運営に対しご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

先月11日、東日本大震災・原発事故災害から10年を迎えました。

振り返ってみますと、あの日を境に、本町を取り巻く環境は激変し、多くの障害・障壁が我々町民の前に立ちはだかることになりました。私たちは、「町土の除染なくして復興なし」「町民の健康なくして復興なし」「町民の安心なくして復興なし」を三大スローガンに掲げ、未曾有の大災害からの復旧・復興に町民一丸となって力強く取り組み、その結果、今日の「こおり新時代」を迎えることができました。

しかしながら、現在、私たちは、10年前同様、過去に経験したことのない「新型コロナウイルス感染症」という「見えない脅威」との戦いを再び強いられております。目に見えないウイルスが世界中で猛威を振るうという未曾有の事態が一年余り続いており、さらには、新たに変異種が確認されるなど、未だに事態収束の見通しが立たない閉塞した状況下に置かれております。町といたしましては、引き続き、感染拡大防止はもとより、地域経済活性化や住民生活支援などの施策をバランスよく展開するとともに、切り札となるワクチンが届く4月以降、高齢者施設入所者・従事者を皮切りに接種を開始し、全町民の速やかかつ安全なワクチン接種完了に向けて、全力で取り組んでまいります。

さて、新しく迎えた令和3年度は、東日本大震災や原発事故災害からの復興関連事業を整理するとともに、コロナ禍を踏まえ、感染拡大防止と経済再生の両立を図りながら、地域社会・経済の再構築に向けた取組みをより一層強化しなければならない年であり、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、デジタル社会、脱炭素社会の進展など、社会情勢の変化に真正面から向き合いながら、引き続き、「住み続けたいまち 住みたいまち 桑折」の実現を目指し、町民の皆様とともに「桑折らしさ」を大切に「桑折ならではの」施策を展開していかなくてはならない年でもあると考えております。

新年度当初予算については、「平時」とは違う前提で、コロナ感染症対策を推進しながら、令和4年度からの「新総合計画」に沿ったまちづくりへ円滑に移行するため、「健康と福祉の町」「危機管理に備える町」など6つの重点項目に優先配分し、地域経済活性化、教育の充実、農

業振興、健康づくりなどに力点を置いた編成となっております。私は、この当初予算を丑年にちなみ「コロナ禍を着実に歩む予算」と名付け、コロナ禍を克服した輝かしい未来に向かって着実に一步を踏み出す年にしていきたいと思いますと考えております。

それでは、新年度事業のうち総合計画の重点プロジェクト関連事業等について説明いたします。

第1は「『献上桃の郷』展開プロジェクト」であります。

「モモせん孔細菌病対策」については、防除費助成の拡充や防風林設置費用の助成を行うとともに、「就農者支援事業」については、新たな農業後継者に対して激励金を交付するなど、新規就農者、農業後継者の確保に努めてまいります。

「献上桃の郷」PR事業については、楽天ゴールデンイーグルスとのオフィシャルスポンサー契約を継続し、戦略的なシティプロモーションを展開するなど、本町の魅力を内外へ発信し、交流人口の拡大、関係人口の創出に取り組んでまいります。

第2は「21世紀の追分推進プロジェクト」であります。

伊達桑折IC周辺については、ゴールデンウイーク前後に相馬福島道路が全線開通され、伊達市においても、大型商業施設の整備計画が動き出すなど、本町を含めた周辺地域の地理的優位性がますます顕著となっていることから、「新産業団地基本構想（適地選定）策定業務」の成果等を踏まえた土地利用の推進と企業誘致の活動に努めてまいります。

第3は「歴史まちづくり推進プロジェクト」であります。

「歴史的風致維持向上計画」については、10月に「第28回全国山城サミット桑折大会」を開催し、「伊達氏発祥の地」として本町を全国に広くPRするとともに、全国からの来訪者に本町の歴史を体感してもらえよう、旧伊達郡役所の早期修復や門扉再現、万正寺の大カヤ周辺整備などの事業を進めてまいります。



第4は「町民のための庁舎整備プロジェクト」であります。

「こおり新時代の象徴」である役場新庁舎については、2月の大型地震で早速その機能を十分に発揮したほか、多くの町民に訪れていただいております。まさに「町民のための役場」であることを実感しております。また、7月には、庁舎前広場をメイン会場に「コロナに打ち勝つ！桑折エールプロジェクト第3弾」として、経済団体や文化団体等と連携し、町民参加型のイベントを開催する予定であり、引き続き、町民に親しみ、愛される役場づくりに努めてまいります。

その他、長年の懸案だった「福島蚕糸跡地」の残り1.9haの活用については、商業施設を核とした「交流」「子育て」などの機能を備えた複合施設の整備を官民連携で進めることにいたしました。早急に事業者を募り、町民の利便性を高めるためのコンパクトなまちづくりを目指してまいります。

結びに、私は、今後とも、町民の皆さまの「命」と「暮らし」を守るため、その先頭に立って、「コロナに打ち勝つ」を合言葉に、各種施策に力強く取り組んでまいり所存であります。そして、一万全町民が、桑折人の気概を持ち、心ひとつに真摯に向き合うことにより、コロナ禍など様々な困難を克服し、輝かしい未来に向かって歩みを進めることができるものと信じておりますので、皆様におかれましては、引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。